

# 平成24年度 基金決算の お知らせ

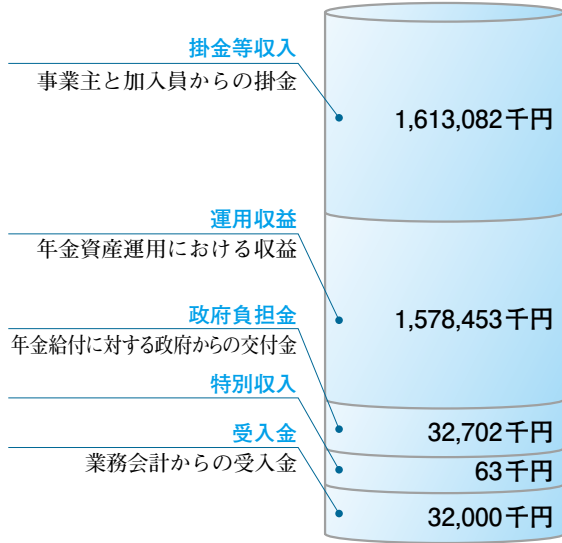
## 年度末年金資産は約132億円に

当基金の平成24年度決算が、去る9月10日に開催された第50回代議員会において審議され、全会一致で可決・承認されましたのでお知らせします。  
平成24年度の運用環境は、米国景気の回復や安倍政権の金融経済政策、いわゆる「アベノミクス」への期待感から、国内・米国株式とも上昇基調となりました。斯かる環境下、当基金の資産運用利回りは時価ベースで14.03%と、予定運用収益率8.99%を約5%上回りました。これにより、当年度剰余金777百万円を計上し、結果、繰越不足金は前年度792百万円から15百万円へと大きく減少しました。

## 年金経理

年金・一時金の給付に必要な収支に関する経理です。  
(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収益勘定 3,256,300千円



費用勘定 3,256,300千円



## 平成24年度末時点の積立状況

### 1. 貸借対照表の変更

当年度から下図のように変更になりました。改定された科目は、将来の給付に備えて基金が現時点で保有すべき「責任準備金」を構成する項目で、その内容は次のとおりです。

「責任準備金(プラスアルファ部分)」は、現時点で積み立てておかなければならない上乗せ部分の債務額です。「最低責任準備金」は、基金が解散した場合に企業年金連合会(代行返上の場合)に移換すべき額のことであり、「非継続基準の財政検証」に用いる代行部分の債務です。「最低責任準備金調整額」は、最低責任準備金から「期ズレ」の影響を排除するためのものです。

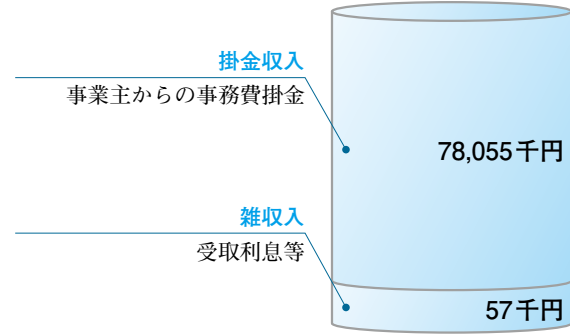
貸借対照表の変更(イメージ図)

〈従来の貸借対照表〉		〈見直し後の貸借対照表〉	
未償却過去勤務債務残高	数理債務	純資産額	責任準備金(プラスアルファ部分)
純資産額		(不足金が増加)	最低責任準備金
資産評価調整額		不足金	最低責任準備金調整額
不足金	最低責任準備金(継続基準)		

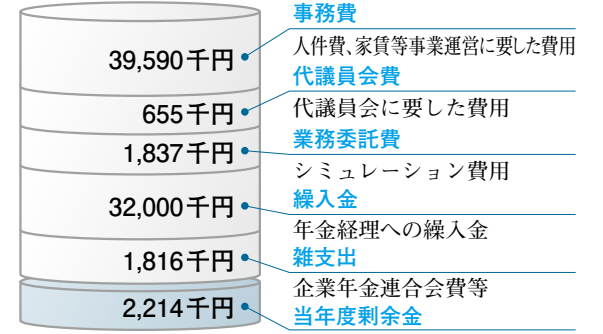
## 業務経理・業務会計

基金の業務運営に必要な費用に関する会計です。  
(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収益勘定 78,112千円



費用勘定 78,112千円



## 平成24年度 積立水準の検証

基金では、毎年度積立水準の検証を行っています。検証方法は、基金が将来的に継続することを前提とした「継続基準」と、決算時点で解散することを想定した「非継続基準」の2つの基準によって行われます。当基金における平成24年度末の積立水準は下

表のようになっており、継続基準において基準値を下回っています。しかし、今回は「財政計算の留保」における基準値をクリアしておりますので、変更計算等を行う必要はありません(下記参照)。今後も財政状況を注視し、対応してまいります。

区分	当基金の積立水準		基準値	
継続基準	純資産額	12,979百万円	1.00以上	
	責任準備金	12,994百万円		
		= 0.99		
継続基準(留保判定)	数理上資産額+許容繰越不足金(12,979+5,335)百万円		1.00以上	
	責任準備金	12,994百万円		
		= 1.40		
非継続基準	代行給付について	純資産額	12,979百万円	1.05以上
		最低責任準備金	10,198百万円	
	給付の全体について	純資産額	12,979百万円	0.92以上
		最低積立基準額	12,583百万円	
		= 1.03		

### 2. 平成24年度末の積立状況

下図は、貸借対照表を簡略化したものです。資産勘定の「年金資産」と負債勘定の「責任準備金+支払備金」等を比較し、過不足を「基本金」という

科目で表します。当年度は、前者が13,228百万円に対し、後者が13,243百万円であったことから、「基本金(不足金:繰越不足金-当期剰余金)」は15百万円となりました。

